

感想・メッセージ

地域医療講演会 I

葛西龍樹先生

<医師>

- ・日本の家庭医が質の高い研究を発信していけるよう、頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・家庭医とは何か？なぜ家庭医が必要なのか基本的な部分から、家庭医の魅力まで、幅広く学ぶことができました。とても楽しい講演をありがとうございました。
- ・日本の医療の問題点、家庭医の価値が認知されていない原因など、大変勉強になりました。家庭医の価値を一般市民へとうまく伝えていくことが、今後重要になるように感じました。
- ・家庭医療の魅力について非常に分かりやすく講演して頂き、とても勉強になりました。ありがとうございました。

<コメディカル>

- ・台風の中、ご講演いただきまして、ありがとうございました。英文のところは分かりませんでした。リハ専門職も経験則を大事にし、そのことをデータ化、蓄積し、臨床に生かしていきたいと思います。もっと、葛西先生の臨床の話、大事にしている症例などの話が聞きたかったです。
- ・日本の医療の問題点について深く考えさせられ、家庭医療の必要性、重要性についても、勉強し理解して一般的になれば良いなと思いました。ありがとうございました。
- ・家庭医（総合診療専門医）として活動することは大変なことだと思いますが、もっともっと多くの医学生がこの家庭医を専攻してくれると、私達は嬉しいなあと思いました。今日、来られた医学生の方々の目標になれるといいなと思いました。
- ・最近の医療の話題を取り込んで興味湧きました。近くの人達と例題について話し合う事で、いろんな視点から学ぶことが出来ました。

<医学生>

- ・どこの場所にも最善の医療の形を完成させているものではなく、メリット、デメリットがそれぞれにあるというお話が最初にありましたが、それは確かに間違いないと思います。しかし、葛西先生のお話を聞き、やはり日本の家庭医の制度は遅れていると分かった。
- ・家庭医療学について、もっと考えることができた。日本の医療は、まだまだ完全なものではないので、より良いものにしていくべきだと思った。
- ・日本の家庭医のトップの方からお話を聞くことができよかったです。「医療大転換」や「家庭医療学」を大学に戻って、是非読みたいと思います。
- ・家庭医、プライマリ・ケアの考えが最も進んでいるのは、オランダである→データベースの功績も世界には既に浸透している考え方を日本も頑なにならず取り組んでいけるようになりたい。研究の現場が臨床にある→診察しながら研究ができるメリット。
- ・家庭医について、専門家の立場から詳しいお話を聞くことができよかったです。

最近、総合診療医が取りざたされている中で、家庭医について歴史や現状、今後の展望などを知ることができて、今後のキャリアを考える上で、非常に参考になりました。

今日のお話を聞いて、家庭医を目指してみようと思いました。

- ・初めて家庭医を生で見ました。もっと家庭医が増えたらいいと思います。
マイクさんの研究が面白かったです。
- ・実現の可能性の高低で自分のやりたいことを決めない。
どこでもありそうな症例から、日本の医療に関する問題点が見えてきたのが、おもしろかった。
先生のお話の中で、一番印象に残ったのは、実現の可能性が低いからと言って自分のやりたいことを諦めないということです。私は自分には無理だと思ってしまう癖があるので、挫折することを恐れずに自分が本当にやりたいことをやってみたいと思います。
- ・診療というより、診察に重きをおいて研究が行われているような気がした。
- ・現在の医療問題について知らなかったものがあり、大変勉強になった。専門医ばかりをつくらず家庭医のような広い知識を持つ医師が増えることが良いと思うが、自分が患者であるとき、より専門的な医師に診てもらいたいと思ってしまう現状があると考えた。家庭医のような、かかりつけ医が信頼に足る存在となれば医療体制全体により良い影響があると思う。
- ・オランダのように、医療研究に対する姿勢を日本ももっと見習うべきだと思った。日本の今日の医療体制が浮き彫りになり、今の医師の問題点を知ることができた。総合診療医・家庭医に対する認識が日本はとても低いので、改善すべき点であるなどと思いました。
- ・家庭医療についておおまかな知識しか持ってなかったので、少しでも知ることができてよかったです。
- ・「家庭医」は私も関心のあるところで、今回改めて詳しくお話を聴けてよかったです。
家庭医は夢のある分野だなと思いました。
- ・ご講演、ありがとうございました。
僕は、地域枠で医学部に入学しております。将来を担っていく地域医療は、プライマリケアに近いものであると感じました。
医学生の間でも家庭医療は、まだあまり認知されていないので、僕ももっと学習し広めていこうと思いました。
- ・お忙しい中、講演ありがとうございました。

地域医療講演会Ⅱ

井階友貴先生

〈医師〉

- ・研修1年目を離島病院で、2年目以降は本土病院（3次）で働いております。地域に出ていく祭りや行事に参加するなど、昔は何気なくやって住民、患者と近くなっていた気がします。今は本土でそういった場ではやっても、なかなか結びつかないもどかしさも感じています。
- ・‘医者っぽくない’という言葉がとても心に残りました。

<コメディカル>

- ・地域医療とは、住民、地域、患者さんのニーズに合わせて医療を提供する事だと改めて感じました。高浜町の現在の医療を知る事が出来ました。写真、映像が多く出て飽きませんでした。
- ・ユーモアのあるお話で、地域医療がとても分かりやすかったです。
- ・ユーモアを交えた講義、有難うございました。
「5か条」も大変勉強になりました。地域の方々も幸せと思います。
- ・福井から遠路遙々、平戸まで来ていただき、ありがとうございました。楽しく、講演を聞かせていただきました。医師としての地域医療に対する情熱を感じました。
主人公は地域住民。地域住民としてできることを探して、実行して行こう！
地域医療を守り育てる「5か条」 地域住民をまきこんで活動されているのがすごいですね。平戸弁では「やっぱり行動せんばよね」と感じました。

<医学生>

- ・地域の医療を変えるのは住民の力だということ。住民に見捨てられた心情を与えることも、見限られることも医療の崩壊につながってしまうのだと思いました。
未だ実感はありませんが、専門性を持つにつれ他の職種への柔軟性が少し失われ、偏りが出てくるというお話は聞いていたので、医者っぽくない医者を目指したいと改めて思いました。やはり、人の心をつかむ努力はしていきたいとも考えました。何か一芸あるということは、医者だからこそ大切なのだと思いました。
とても楽しく学ばせていただき、ありがとうございました。
- ・住民とうまくやろうという話はよく聞くのですが、実際にどんなことをするかということとはあまり聞いた事がなかったので、住民のグループなど様々なことが聞けてよかったです。

へき地研修卒業生によるシンポジウム

「地域医療の現場から報告」

鶴 展寿先生

<医師>

- ・対馬と上五島の比較がおもしろかったです。

<コメディカル>

- ・地域医療、整形外科の現状を知る事が出来ました。
- ・子供さん、とても可愛かったです。
整形外科の離島の現状を知ることができました。
- ・子供さん、かわいかった。幸せそう！！
知識、技術、信頼が大切だと再認識しました。勉強になりました。謙虚さが大事だと思いました。ありがとうございました。
- ・対馬に整形外科医が7名もいることを羨ましく思います。ただ、縦に長い島なので、医師も住民も大変とは想像できます。次の選択肢は「平戸市民病院」をお願いします。
- ・上五島において本土と変わらない医療を目指すということが、とても印象的でした。

- ・今後も地域医療を含め、御活躍をお祈り致します。
- ・過去の夏合宿を思い出しました。みんなで騒いだ学生さんが、今は立派な Dr として仕事をされている姿にたのもしさを感じました。今後も、頑張ってください。また来てください。

<医学生>

- ・上五島病院は整形外科の症例数が多い。やはり忙しい。
単に何年かで全てを理解できないのだと思いました。患者さんを治すのに自信はなかなかもてないのことで、自分が何かを決断することができるのだろうかと思いました。
- ・整形外科にあまりはっきりとしたイメージがなかったので、イメージできるような話が聞けてよかったです。
- ・患者に信頼されるような医師、本土と変わらない医療づくりを目指すことの難しさを知りました。
- ・何でも診れる医師になりたいという気持ちは自分も持っているので、夢と現実を比べることで、これからどのように学んでいけばよいか考えるいい機会となりました。

尾崎 真先生

<医師>

- ・同期であり高いモチベーションに刺激をうけた。

<コメディカル>

- ・沖縄中部病院の医師、いつも気にしていること。ドクター同士の関係、日頃の気持ちを
知る事が出来ました。
- ・沖縄での取り組みを知ることができてよかったです。
- ・24時間、365日、医師であることのプレッシャーはとて大きいのだなあと思いました。
- ・次は結婚ですネ。
- ・久しぶりにお会いできて嬉しかったです。
結構、厳しい環境で頑張っておられること、感心しました。
- ・きれいな海や環境でのご活躍、お疲れ様です。今日の講演、とてもよかったです。特に
スライドが素晴らしいと思いました。
- ・笑顔が素敵な方との印象があります。
沖縄での研修、頑張っていらっしゃる姿がわかりました。今後も頑張ってください。
また、来てくださいね。

<医学生>

- ・激務、県民にとっての最後のとりで。断らない救急。
やろうと思ったことがあったら、とりあえず貪欲に飛び込んでみることに。
キャリアや生活への不安もある。男女でも同様に悩むのだらうと思います。
- ・沖縄での経験を聞くというのは、なかなかない機会なので、お話を聞くことが出来てよ
かったです。
- ・日々の診療に対するモチベーションや毎日の人との出遭いを重んじることの大切さを知
りました。

水野 綾先生

<医師>

- ・地域も東京もあまり変わらないなということを感じた。そのことがとても意外な感じがした。

<コメディカル>

- ・都会での医療、地域医療に関しての気持ちについて知る事が出来ました。
- ・都会と地域での違い、現状を知ることができました。
- ・地域に帰って来て下さい。待ってます。
- ・都会の方、田舎の方の違いがとても分かりやすかったです。
都会の方も、人はいっぱいですが、独りぼっちで寂しいのだなあと思いました。
- ・ある意味、田舎より都会の方が課題が多いということを改めて認識されました。
- ・東京（大都会）での医療、お疲れ様です。今後の御活躍をお祈り申し上げます。
- ・都会の都合、田舎の都合、おのおの問題をわかりやすく教えていただけて大変良かったです。いろいろ考えること悩むことも多いと思いますが、負けずに頑張ってください。期待していますよー。

<医学生>

- ・都会へ行っても、へき地と似たような問題を抱えていて、それをどう解決しなければならないのか？という大切さを知った。
- ・都会で行う地域医療もある。かたちは違ってくるけれど、都会のあり方は少しさびしげだし、医療の目が厳しいだろうと思いました。だからといって地域がゆるいということではなく、人間味をもった医療に需要があるかどうかなのだろうかと思いました。
- ・東京という地域とは対極のような地域で働かれている方の話を聞くことができよかったです。

シンポジウムⅡ

「地域医療のアドバンテージ」

長嶺由衣子先生

<医師>

- ・医師として、今まで関係のなかった地域に行くときに、風習や芸能などに関しても教わる姿勢をもつことの大切さを感じました。
- ・地域（島）という限られたフィールドを対象に保健を考えることが、外国の公衆衛生に役立つ。
- ・地域、離島で活動をされ、必要な知識、事を見つけ、前に進んでおられる姿がとてもすごいと感じました。

<コメディカル>

- ・島にたった1人の医師ということで、いろいろなご苦労があると思います。
今、この時も、島でたくさんの住民の方々が先生の帰りを待っていることと思いますが、どうぞ、お体に気をつけて頑張ってください。
- ・大変、感動しました。
離島の慣れない生活に臆することなく、楽しく生活していて素晴らしいと思います。
- ・公衆衛生の視点からの医療、予防医学の大切さを感じました。
これからも身体に気をつけて頑張ってください。

病気は結果である。そうですね、目からうろこです。

- ・ 地域、海外での学び、考えを知る事が出来た。粟国診療所での患者さんとの付き合い方を知る事が出来た。

<医学生>

- ・ 前日の井階先生のご講演と同様、沖縄の島で地域と行政にどうやって関わっていくかがよくわかった。
- ・ 最後の特集番組の中で島の人達の中に溶け込んでいるのを見て、こんなお医者さんになりたいと思いました。
- ・ 沖縄の離島を医師としては1人になるのは大変だと思った。
へり数の減り方がすごい。
人のつながりは大事。知ってもらうことも大切。信頼とか空気を読む。
- ・ 「その地域の1住民として取り組む」が心に残りました。テレビで特集された粟国診療所のところが、すごくいい雰囲気がいいなと思った。その土地の迷信などがあるから、教わる側となってその土地に溶け込むのが重要だと思った。1人で島の医療を支えている姿がかっこいいなと思いました。
- ・ 地域、離島で活動をされ、必要なことを見つけ、前に進んでおられる姿がとてもすごいと感じました。
- ・ 地域と海外との医療のつながりを知ることができました。

武内三恵先生

<医師>

- ・ 自分は、横浜で働いていますが、何人かの「自立した看護師」に出会うことができました。医師でも同じですが、成長するには、自分の意志が最も大事ではありますが、それだけでは無理で、サポートや環境もまた必要なものです。そういった場としてのジャパンハートの活動に感銘を受けました。
- ・ 一緒にジャパンハートの派遣看護師さんと働いたことがありますが、へき地にはなかなか交流がないので、双方にとっても意義があることがあると思います。
- ・ 国際医療と地域医療の共通点や魅力について、とてもおもしろいお話をありがとうございました。

<コメディカル>

- ・ 「1人でも多くの患者さんの笑顔を作る」とても素敵です。だけど、その裏には、たくさんの努力が詰まっているのではないのでしょうか。
子供達の輝く未来のため、大変だとは思いますが、これからの御活動、御活躍に期待します。
- ・ 海外での看護活動等、大変だと感じました。
看護師のスキルアップになっていると思う。
- ・ 海外での看護師の活動のお話が聞けてよかったです。
これからも身体に気をつけて頑張ってください。
- ・ 海外での看護師の活躍を知る事が出来ました。
- ・ 離島での看護、ミャンマーでの看護の共通点を知ることができました。

<医学生>

- ・看護師という視点で、どのように地域貢献に足を踏み入れるかということがわかった。
- ・看護師だけでなく、医師も海外研修に参加可能であることに興味を持ちました。
- ・外国へ向けた目がゆくゆくは地域に、その逆もあるということは面白いと思った。
充分、地域で海外で適用する能力が得られるというのは迷っている学生にはとてもいい情報だと思う。
- ・地域医療と国際医療を比較して、自らの体験をふまえて、お話して下さってとても参考になりました。ミャンマーやカンボジア、ラオスなど発展途上国で医療をするのに少し興味ができました。ジャパンハートの活動をよく知りませんでした。知る事が出来て良かったです。

小野隆司先生

<医師>

- ・旅をして感じることは、日本で暮らしていると感じないことが多いと思います。日本と比べるのではなく、違うものを違うものとして受け入れることが大切だと自分は思っています。
小規模離島ほど、医療環境は厳しいのかなと感じていましたが、中規模離島の話の聞いて見方が変わりました。
- ・臨床教授とはどのような仕事されているのか興味があったがまさに総合医であった。
- ・とても興味深い話でした。

<コメディカル>

- ・生月病院も医師不足、看護師不足が問題です。
当院は島に1つしかない医療施設です。医師も少ない人数で、当直もしています。昼夜問わず、救急車も来る状況です。
- ・医療格差については、改めて大変であると思いました。
海外の未開の地ばかりではなく、国内でも多くの医療格差があり、その解消についても、なかなか是正できないことだと思います。
- ・地域性などを評価し、足りないもの、強みなどを生かしていくことが大事だと思いました。
- ・毎回、楽しく講演を聴かせていただいております。離島は、総合医を育てる。必要になって努力され、育てているということですね。
これからも身体に気をつけて活躍されてください。
- ・経験談から活動を知ることができました。

<医学生>

- ・地域医療を国際的なへき地で実践することで、他の先進国の地域医療と関われることがわかった。
- ・医療格差が経営を圧迫する。
離島と国際という遠くみえることがらが、実は関連しあっているということが興味深かった。
- ・地域の病院の建て直していく大変さがよく分かりました。
- ・自らの経験をもとにいろいろためになるお話だった。国内にある医療格差を見てきて、離島医療に尽力されていてすごいと思った。

講演中の“離島は総合医を育てる”という word が心に残りました。また、自分がみる領域を定めるのも重要だという話が心に残りました。

- ・ 国際での過ごし方、今までの経験について知る事ができました。

職員向け講演

「長崎大学の地域貢献」

調 漸 先生

- ・ 今後の医療の方向性が見えてきたような気がします。
今後、離島や県北地区の医療が少しでも良い方向に向かっていくように期待しています。
- ・ 悪天候の中、地域医療の発展の為、平戸市に貢献いただき、ありがとうございます。
何でも、特に自然食等の話や核での活躍にはびっくりしました。
- ・ 県内の実情、三次救急体制などについてわかりやすく説明していただき、わかりやすかったです。
- ・ 調教授、いつも地域医療に取り組み、お疲れ様です。
これからも、平戸市民病院をよろしくお願い致します。
- ・ 大変、おもしろく聞くことができました。
普通は、聞けないことを教えていただき、ありがとうございました。
昨年もおもしろかったです、今年もよかったです。
- ・ 楽しかったです。医療連携、重要ですね。へき地にとっては特にです。
来年も楽しみにしています！
- ・ 医療の話だけでなく、幅広いお話をありがとうございました。
- ・ 活動の話が多く聞けて、とても楽しかったです。
学ぶためには都会に出なければ！！という考えもありましたが、地元で学び育てる大切さがわかりました。興味深いお話、ありがとうございました。
- ・ 調教授の活動がよく理解でき、普段聞けないような内容豊富で、とても意義ある時間でした。もっともっと聞きたいです。
- ・ カナダは法律で①健診義務化②4割を家庭医という話。
日本は、国民皆制度なので、これを医療政策として取り入れるべきだと考えます。
「風に立つライオン」の歌詞ではありませんが、「日本はどこかで道を間違えた」と思います。たちかえる努力が絶対必要だと考えます。

訪問実習体験の感想

訪問診療

- ・ 初めて、訪問診療をしました。
一人目の患者さんは、要介護 5 の高齢者の男性の方でした。介護しているのは、その奥さんで、訪問診療と一緒に来られた看護師さんと打ち解けた様子で、状態を説明されていました。ずっと介護されているので、ショートステイでリフレッシュしているようでした。
2人目の患者さんは、要介護 5 の高齢者の女性の方でした。普段は、はっきりするらしいですが、今日は口数も少なく、床づれもできていて心配になりました。

2人とも、要介護5で、一緒に住んでいる家族だけでは介護が大変だったと思います。しかし、訪問診療や看護によって、支えられているんだなと思いました。

- ・今回、実際に訪問診療を見て、訪問診療に対する明確なイメージがもてたと思います。患者さんの家に行くまでの道は、坂道だったり、すごく細かくて車が通りにくい道だったりしたので、訪問診療の大切さを感じられました。しかし交通手段として車は、必要だと感じました。先生と患者さんの会話がとても楽しく続いていたので、ストレスを感じずに診療することができるのだなあと感じました。訪問診療については、血圧、脈拍、血統、体温の他に患者さんによっては採血もしていました。触診や会話（問診）をしていた。先生がおっしゃったように医者は病気について見ることが多いと思うので、広い範囲でケアについて考えたいと思いました。

- ・介護5の患者さん2人の訪問診療に同行しました。寝たきりの患者だったので、全身を触診したり褥瘡を見つけるために体を動かすのが大変そうだった。初めての患者さんは、話すのも困難な方だった。介護者の方が患者さんの排便の回数や日時、入浴の回数などをしっかり覚えていて驚いた。今日、訪問した2人の患者さんには、息子のお嫁さんがつきっきりで介護していて、負担が大きいだろうなと思った。その負担を少しでも軽くするために、ショートステイが行われているようだ。1週間弱、患者さんに入院してもらうことに指し、その間に介護者が気分などをリフレッシュさせるようだ。

2人目の患者さんは、診察が主だったが新しく発見した褥瘡の手当を受けた。月に1度の訪問診療と月に1度の訪問看護であるため、もう少し回数を増やした方が褥瘡の予防にもつながるのではないかと思った。

初めて訪問診療を実際に見せていただき、褥瘡も初めて目にし、たくさんの刺激を受けました。中桶先生の話聞いて、在宅医療は診療、看護、リハビリのバランスが大切で、それぞれの視点の違いが重要だということが理解できました。

- ・今まで数回、病院の診察を見学させてもらったことがありますが、自宅に訪れて行う訪問診療は初めての体験でした。

訪問診療を受けるのは、ほとんど高齢者で、自分で病院へ行くのが困難な患者さんが多いと学びました。1人目の患者さんは、高血圧の患者さんで、膝の痛みがある方でした。先生は、患者さんと世間話をしながら状態を尋ね、問診につなげていました。患者さんの容態を知るため、バイタルチェックを行い、心音や体温など測定していました。先生と患者さんはとても仲がよく、信頼しあっているようでした。

2人目の患者さんは糖尿病の患者さんで、進行状態を調べるために足の腫れを調べる触診を見学し、またバイタルチェックを行っていました。患者さんが理解できるように、医学用語を使わずに説明するというのを教えてもらいました。また、患者さんが気構えないように世間話などで、その場の雰囲気や和ませているように感じました。

今回、訪れたところは立地が悪く、病院に行くのは困難で訪問診療は意味のあるものだと感じました。

- ・移動が大変（道がせまい、その土地を理解しないといけない）+運転免許の必要性を感じた。

専門的な用語を使用しない。簡単に分かりやすい質問をする。

相手のペースに合わせた会話、日常的な話をする。→患者の家の事情、時事にも目を向

ける必要があると思った。

初めて訪問診療を見学して、離島・へき地の医療の大変さを実感した。また、「訪問診療」、「訪問看護」、「訪問リハビリ」それぞれ違った視点から患者を見ていることも実感した。

- ・今回、訪問診療を見学させていただいた患者さんは、どちらも要介護 5 の方でした。毎日、付き添って介護している家族の大変さを考えると、訪問診療や訪問看護の的確な診察や治療が心強いものになるのだと思いました。今日、伺った患者さんは、二人とも、医師や看護師の声かけに対し、反対が薄かったが、それでも声をかけ続け、コミュニケーションをとろうとしている姿が印象的だった。

一方の患者さんは、ディケアにも通っていたが、それらの予定も先生方が把握しており、訪問診療を効率的に行う工夫が成されているように感じた。

- ・高血圧の患者さんの血圧を水銀計で計らせていただいた。生理学実習で計ったことがあるだけだったので、心配ではあったが自動計と変わらない値が出てよかった。心音も聞かせてもらいました。

カルテの AIP も書かせてもらった。バイタルをとりながら、世間話をしているようで、実はそれが問診になっていて感動しました。

糖尿病の患者さんの HbA1c は、6 点代後半であったが低血糖の危険も考慮して、下げ過ぎないようにするという視点もあった。糖尿病ということもあり、足の状態をよく診察されていた。専門用語を用いず、分かりやすい言葉を用いていた。

病院へのアクセスが悪いことも訪問診療がなくてはならない理由の 1 つであると思いました。

- ・今回実際に訪問診療を見て、訪問診療に対する明確なイメージがもてたと思う。患者さんの家に行くまでの道は、坂道だったり、すごく細かくて車が通りにくい道だったりしたので、訪問診療の大切さが感じられた。しかし、交通手段として車は必要だと感じた。先生と患者さんの会話がとても楽しく続いていたので、ストレスを感じずに診察することができるのだなあと感じた。訪問診療については、血圧、脈拍、血糖、体温の他に患者さんによっては採血もしていた。触診や会話（問診）をしていた。先生がおっしゃったように医者は病気について見る人が多いと思うので、広い範囲でケアについて考えたいと思いました。

- ・実際に、訪問診療を見て在宅と病院での違いを改めて感じた。物品など必要なものが限られている中で、患者さんの状態を把握する力が必要であることが感じた。

在宅と病院との連携がとても求められていることが分かった。

- ・実習では、訪問看護しか行ったことがなかったので、訪問診療を見て、Dr の診察、採血等、また、慢性期の患者さんの状態が悪化していないか、微候の有無を観察していて、在宅での訪問診療を体験できて良かったです。

いつも仕事で看護師として働いていますが、Dr からの視線を学ぶことが出来て良かったです。

訪問看護

- ・私は、訪問看護を体験させていただきました。伺ったのは 40 代女性のお宅でした。そこでは、健康状態の確認と膀胱洗浄、清拭を見学、体験しました。

今までの実習で、患者さんと接するときは外来か病室に限られており、行うこともお

話を聞くぐらいだったので、実際に患者さんと触れ合う清拭は貴重な体験でした。まず、体を拭く順序も分かりませんでした。また、力加減も初めは、おっかなびっくりで弱すぎて痛みを与えてしまっただけではいけないととても緊張しました。下半身が不自由な方でしたが、できる限りやりやすいように体の向きを変えてくださって本当に、ありがたかったです。清拭の間に、ご家族の方が部屋を通って行くことがあり、訪問看護は、本当に患者さんの家というより内部に踏み込んで行う医療なのだと感じました。すぐそばに患者さんの生活の場があふれていることが新鮮でした。週1回の訪問看護に加え、週2回のヘルパーを利用されているとのことでしたが、活動的で多趣味な方で、運動会では1つの種目で優勝されたり、紙細工を姪子さんと作ったりと日々を楽しんで過ごされていました。

訪問看護のメリットを少し学ぶことができましたし、患者さんの生活の場で、どうふるまうべきかを考えることができました。短い時間でしたが、将来の1つの形を見ることができ、勉強になりました。

- ・改めて、楽しみを実感できました。

将来の診療にとっても役立つと思う。自分も将来「訪問」をしていきたいです。

訪問リハビリ

- ・今回、初めて訪問の実習をさせていただき、良い経験ができました。私は介護の見学をさせていただきました。寝たきりの状態の方のリハビリでしたが、体を起こしたり、足の関節を広げたりしておられ、寝たきりでも出来るリハビリが結構あるんだなと思いました。リハビリというと普通の生活に戻るためというイメージがありましたが、今回の方は、介護する側がやりやすいようにするためのリハビリということで、今まで知らなかった面を知ることが出来てよかったです。また、身体的なりハビリだけではなく、写真を見せて話を聞いたりしてコミュニケーションをとるなどして、脳のリハビリもしているのが印象的でした。

今回は訪問介護の見学でしたが、是非、訪問診療や訪問看護、往診の見学をしたいと思いました。

- ・往診と違うので、持っていく器具は血圧計ぐらいと、そんなに多くなかった。

訪問リハビリでは、患者さんの自立が目的であるだけでなく、日常生活で家族がケアするのを楽しめる目的で行うものもあるということを知りました。

痛がる患者さんや、なかなか自力で動くことが難しい患者さんの手助けをあまりせずに励ますのは、とてもきつい仕事だけど、患者さんが動けるようになるためには大事なことなんだろうと思った。

- ・今回のオリエンテーション後に思ったことは、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリは互いに異なった役割を持っていて、相対的に患者をケアしている印象でした。共通していることは、閉鎖的になりがちな介護の現場に外から人が訪れることで、コミュニケーションや生活の質の点でも重要な役割を担っていることが分かりました。